

子や孫へ、 希望あふれる未来を 創りつなぐまち

錦江町長

木場 一昭

TOP Interview

高齢者は町の財産
生涯現役の高齢者の育成を

——錦江町における健康に暮らせるまちづくりへのビジョンについてお聞かせください

本町の総合振興計画の目指す将来ビジョンは「ひと輝く こころ豊かな町」であり、ここに住む人が生き生きと豊かに生活できることを目指して様々な取り組みを展開しています。本町の高齢化率は県内2位で45%を超えていますが、「高齢者は歩く図書館」であると言われる通り、高齢者の存在は町にとって財産であると考えます。だからこそ高齢者の健康や体力を維持することを一番大事にしています。そのため健診率向上やサロモン活動の充実等に取り組むほか、今後は、生涯現役の高齢者育成のため、高齢者が地

江湾を隔てて開聞岳と桜島が一望できる錦江町。高齢化率は45%を超える県内2位という同町だが、どのような健康づくりに取り組んでおられるのだろうか。木場一昭町長に、健康に暮らせるまちづくりへのビジョンやご自身の健康法等について、お話を伺った。

——力を入れておられる取り組みや、特色のある取り組みについてお聞かせください

本町では様々な健康教室を開催していますが、一昨年から開講した「栄養学」や「運動学」を組み合わせて一緒に学んでもらう「体験型健康医学教室」が受講者には人気です。今後も新たな手法を取り入れながら、受講後に住民の方々の実践につながるような、健康指導を行っていきたいと考えています。他にも、いつまでも自宅で生き

域や社会に出る場・活躍する機会を作つていきたいと考えています。また、一昨年結成されたコミュニティースポーツクラブによるスポーツ教室の開催を通して、町民が気軽に参加できる環境を整備していくたいと思います。健康づくりの一環としてスポーツに取り組むだけでなく、一つのコミュニティの場として利用してもらいたいと考えております。

ブレット端末を使い、仲間と話を

しながら楽しく脳が活発になるようにして認知症を予防する「脳若トレーニング教室」も行っています。

その他としまして、改正健康保険法等により、市町村が中心となつて高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に向けた法整備がなされ、令和6年度までの事業実施に向けた体制整備等が求められており、本町においても、事業実施に向けて府内連携の体制の整備検討を令和3年度に実施し、令和4年度から本格的な事業開始が行えるよう、スケジュール等の調整を行っているところです。

第1段階の取り組みとして、令和2年度において後期高齢者医療広域連合と連携して、フレイル対策推進事業に取り組み、サロンの代表者等へのフレイル予防研修会の開催や、一体的実施に向けた府内体制づくりの支援を受けました。その中で、後期高齢者の現状や課題について再認識し、本町が実施すべき一体的実施に向けた準備業務や対策の強化について、先行市町村の取り組み等を参考しながら、国保を含む保健衛生、介護、福祉の担当者が共通認識のもと、スマーズな事業着手が行えるよう研修を実施しました。

少子高齢化の先進地である本町は、高齢者だけではなく、障害者は、育て世代包括支援センターの運用



体験型健康医学教室の様子



脳若トレーニング教室の様子



フレイル対策事業として行われた「元気づくり支援者養成研修会」



介護予防教室の様子

を開始し、9月に錦江町介護福祉ネットワーク連絡会を設立し、行政だけでなく、地域みんなで町づくりを考える体制強化を図りながら、地域包括ケアの構築に向けた取り組みを進めています。

次はフルマラソンに挑戦！

——町長ご自身の健康について、普段から心がけていらっしゃることがありましたらお聞かせください

3つのことを心掛けています。まず一つ目は、年1回の人間ドックの受診（達成率100%）です。二つ目は、一日一万歩を目標に歩くこと（達成率50%）。三つ目は体重のコントロールをすること（達成率80%）です。先日家族からスマートウォッチを誕生日にプレゼントされ、それまで以上に步数を意識するようになりました。実行が難しい時期もありますが、常に意識していきたいと思っています。

「敵対都市提携」（あえて対立構団を持ち込み対決しながらお互いをPRする、錦江町と出水市の地域活性化の取り組み）を結んでいたことから、出水市の秋まつりに出席し、そのあいさつの場で「来年はフルマラソンに出場します」と宣言してきました。自分にプ

レッシャーをかけ、目標を持ち、これから充分な準備を進め、臨もうと思います。

——最後に何か錦江町のPRがございましたらお聞かせください

本町は「子や孫へ、希望あふれる未来を創りつなぐまち」をモットーに、「錦江町MIRAIづくりプロジェクト」（錦江町総合戦略）を進めています。小児科専門医が不在の本町では、子育て世代から安心して子育てできる環境の整備の要望があつたことから、ふるさと納税を活用し都市部の小児科医に遠隔で相談できる「小児科／産婦人科オンライン」事業を導入しました。その取り組みが評価され、「ふるさとチョイスアワード2020」において、ベストインバストメント賞（最優秀賞）を受賞しております。

また、昨年から、インターネットを使つた「MIRAI寺子屋塾」を開設しました。本町には高校・大学がなく、学習塾に通うにも隣町まで保護者が送迎しなくてはならず、子どもにとつてはもちろん親にとつても経済的・時間的な負担になってしまい、地理的なハンディをITを使って克服し、質の高い教育を受けてもらうための取

り組みを始めています。

さらに、地元の子どもたちが将来錦江町に帰つてこられる取り組みが必要なことから、小・中学生を対象に「アントレプレナーシップ教育」を行つています。子どもたち自らが将来どういう仕事をしたいか、そのためにはどうすべきか、自分で考える経験をすることで将来を見据え、地元のことと子供のうちから考えてもらっています。このように、未来を担う子供たちに、都

市部の子供に負けないような教育の充実を図ります。

次に、出水市との「敵対都市提携」をきっかけに、今後は防災の地域協定を結ぶ等、様々な繋がりに発展しています。交流から新たな産業を発展させて町づくりを行うことに取り組んでいきたいと思っています。

その他にも、SDGs、温室効果ガスゼロ、国土強靭化計画など、国をあげて取り組みが進められており、バイオマス発電、小水力発電など、環境を考慮しながらエネルギーの地産地消を目指し、新たな産業として創出していきたいと思っています。